

県外出身の私が、ふとしたきっかけで参加することになったつなカン（つなぐカンパニーながのはらの略称）。参加した理由は、自分の町のことをもっと知りたい、というわくわくした気持ちからでした。活動を通して、町の人やモノに出会えるのがとても楽しいです。

大好きなものの一つに「ツクリモノ」があります。小正月に向けて、豊作や家内安全を祈って作られる木工品です。

鍬・杵・臼・背負子などの農具のミニチュアや、カユカキ棒という鉛筆のようにとがらせた棒。カユカキ棒は、粥を作るときに混ぜる棒で、十字の切込みについた粥の数でその年の方策を占うものです。ホダレ（ケズリバナ）は、豊穣の願いを込め、木肌をナイフで薄く縮れるように削ってお花や稲穂を表したもの。その他、木造道祖神、ハラミ棒・・・いろいろな種類があります。

中でも、全国的にも珍しい物キジグルマは、木の車輪がついた鳥のおもちゃ。お父さんの作ったキジグルマを、小さい子供が楽しそうに走らせて遊んでいる姿が目につかびます。作る人によって、形も大きさも表情も違います。私も近所の方から、小さな可愛いキジグルマをいただきました。ツクリモノは、どんどん焼きで燃やすことが多いようですが、私はもったいなくて毎年窓辺に飾っています。現在やんば天明泥流ミュージアムの旧第一小学校内で、様々なツクリモノが展示されています。

小正月の準備の一つとして、願いを込めて各家庭でツクリモノを手作りする、その心温まる光景もこの地域の魅力だと思います。



日本では正月に一年の無病息災を祈願する歳旦祭に始まり、春に五穀豊穣を祈念する祈年祭、秋には収穫を感謝する新嘗祭、年末には一年の穢を祓う大祓など、四季を通じて祭りが行われている。

本務社（王城山神社）は歳旦祭から大祓まで行っているが、兼務社は春祭りは4月、5月に行われ、秋祭りは9月、10月に行われている。

祭りには神事（祭儀）と祭礼の2つの側面があるが、神事としての祭りは修祓、宮司一拝、御扉開扉、献饌、祝詞奏上、玉串拝礼、撤饌、御扉閉扉、宮司一拝が神職によって粛々と行われる。

祭礼は、多くの人々が参加して行われ、賑やかなお囃子が奏でられ、神輿や山車が出て、見物客を楽しませます。コロナのため祭礼は行われておりません。春、秋の神事では氏子の方々に、玉串作成の榊の枝に紙垂を付ける作業をお願いしている。その中で紙垂の形、向きなどの説明をしている。初めての方が多く、麻で縛るのは難しいなどと言いつつも協力して下さる。神事の中の祝詞奏上はおしゃべりをせず、しっかり聞いていただくよう、明瞭に朗々と奏上している。

神事の最後は社務所で直会を行っている。直会では氏子の皆さんとおいしい料理をいただき、お酒を酌み交わし、楽しい一時を過ごしている。（酒は運転のため飲みません）



特集：守り続けるお祭り



鎌原神社の獅子舞（春）



日本のお祭りの目的は神様に感謝することです。また、祭りの概念には、非日常を華やかに執り行い日常をリセットする意味合いがあるそうです。お祭りを知ることは、普段見られない歴史に触れたり、地域の人と関わったり、新たな一面を見ることが出来ます。色々なお祭りに行って、地域のエネルギーを感じてみましょう。

←与喜屋のお神楽

ジオパークからのお知らせ



発行：浅間山ジオパーク推進協議会

Mt. Asama Geopark Promotion Council
制作担当：広報・観光委員会

〒377-1524 群馬県吾妻郡嬭恋村大字鎌原494-45

TEL/FAX：0279-82-5566

URL：www.mtasama.com

E-mail：asama-geo@ebony.plala.or.jp

Facebook：www.facebook.com/asamageopark

ガイドの受付しています

「浅間山北麓ジオパークガイドの会」の認定ガイドによる案内の受付をしています。ご希望の方は、左記、推進協議会事務局までお申し込みください。

【料金】*ガイド1名あたりの値段

平地：半日6,000円 1日12,000円（参加者11名以上はガイド2名）

軽登山：半日10,000円 1日15,000円（参加者8名以上ガイド2名）

登山：1日25,000円（参加者8名以上ガイド2名）

編集後記



だんご相撲（王城山神社）

8月28日、王城山神社では夏祭りが開催されます。150年前から続くだんご相撲は、五穀豊穰や子どもたちの健やかな成長を願うもので、主役は子供たちです。最初に行司を先頭にみんなで社殿を7周周ります。だんご相撲は、米の団子を作り神前に投げたことが始まり。王城山からススキを採ってきて神社内に神様が泊る50cm角ほどの小さな宿「御借屋（おかりや）」を作り、王城山に籠っている山の神様を招いて、神様を喜ばせるために、春はお神楽・夏はだんご相撲を見てもらいます

大寒中の正月20日未明に行われる奇祭の一つです。約400年程前のこと、源泉の湧出が突然止まりました。困り果てた村民が温泉の香りがゆで卵の匂いになっているので、湯の神は鶏と思ひ込み、鶏を供えて祈願したところ、再び噴出しました。村民はあまりの嬉しさに湯をかけ合って喜んだのが起源だと言われています。源泉の神事が終わると、若い湯かけ人は、王湯に飛び込み湯かけ音頭を合唱して氣勢を上げます。指揮者の合図とともに桶に湯を組み外に出て「お祝いだ、お祝いだ」と叫びながら湯をかけ合います。湯を汲み終わると、湯前様の大前に集合し、「シャン、シャン、シャン、オシャシャンのシャン、おめでとう」と三回繰り返し拍手を打って湯かけ祭りは終了します。



川原湯
NAGANOHARA TOWN

湯かけ祭り

孺恋村と長野原町で行われている伝統的なお祭り

4月	孺恋村	長野原町
		川原湯神楽
		羽根尾獅子舞
		長野原獅子舞
		鎌原獅子舞（春）
5月		林の神楽
		大前八十八夜獅子舞
		与喜屋の神楽
6月		川原畑の百八灯
		林のだんご相撲
8月		鎌原獅子舞（秋）
		芦生田みこし祭り
		三原みこし祭り
		大笹獅子舞
11月		万座薬師堂例祭
1月		鎌原初獅子舞
		だんご焼
		湯かけ祭り

獅子舞

獅子舞の起源はインドと言われ、中国を経て日本に伝わったようです。インドの遊牧民がライオンを霊獣や神として崇めており、ライオンを模して舞を踊るようになったのが獅子舞の原型と言われています。日本では、16世紀ごろ伊勢の国で飢餓や疫病などを追い払うために獅子舞がおこなわれたのが始まりのようです。この地域では、2月18日に袋倉地区で、4月10日に羽根尾神社で、4月30日と9月9日に鎌原神社で、八十八夜（今年は5月2日）に大前諏訪神社で、9月16日と17日に大笹神社でそれぞれ獅子舞が披露されます。



鎌原祭りでの園児の獅子舞の様子

後世に受け継ぐ地域に残る伝統の祭り

どんどん焼き（各地域）

どんどん焼きは、日本各地で行われる小正月の催しで、土地によって「とんど」「どんど」などと呼ばれ、お正月に使用した門松やしめ縄などを持ち寄り焼くことにより無病息災を願う習慣です。火を入れる時になると、地区の人たちはミズブサの木に刺した藪玉（まゆだま）をもってきて、どんどん焼きの火にあぶって焼きます。この藪玉を食べると風邪を引かずに健康で元気に過ごすことができるといわれています。また、どんどん焼きの煙や火にあたると健康でいられるともいわれている、昔から続く伝統行事です。



どんどん焼きの様子

ちよこつと豆知識

ジオパークってそもそも何？

ジオパークとは大地の公園という説明がよくされますが、もっと簡単に言うと、「この素晴らしい景色や地形を、みんなに伝えて、子供たちにも残してあげよう」と思える場所をユネスコが正式に認定した場所のことです。

日本には現在46か所のジオパークが存在し、うち9地域が世界的にその価値を認められた世界ジオパークです。

浅間山北麓ジオパークって？

浅間山ジオパークは2016年に日本ジオパークに認定されました。当ジオパークは孺恋村と長野原町の2町村で成り立っており、6つのエリアに分かれています。6つのエリアにはそれぞれビジターセンターが存在します。

浅間山北麓ジオパークのテーマは「災害と復興がつなぐ、人々の営み」を掲げています。天明噴火によって絶大な被害をもたらした災害と、今まで負けずに、現在まで復興を続けてきた浅間山麓の人々の営みを様々な観点から多くの人に伝えていきます。



日本ジオパークネットワークのロゴマーク



浅間山北麓ジオパークのロゴマーク